

「悼む詩」

谷川 俊太郎 / 詩
正津 勉 / 編
東洋出版

誰にでも、いつかは“死”が訪れます。著名な人、身近な人、大切な人…

記憶をたどると、そこには生きた証が残ります。

この本と一緒に、故人を思い出して下さい。(田端)

谷川俊太郎「そのあと」より

そのあとがある
大切なひとを失ったあと
もうあとはないと思ったあと
すべて終わったと知ったあとにも
終わらないそのあとがある

死んだそのあと

「死」という言葉に、どんな感情を抱きますか？怖いですか？不安ですか？私は、「死」を思い浮かべると、とても悲しい気持ちになります。先日も、近い人がなくなり、その死の瞬間を思うと、とても悲しい気持ちになりましたが、それと同時に昔の思い出が蘇り懐かしく、ほほえましい思い出もたくさん浮かびました。

そんな、故人を、思い出を、詩で綴ったのが、この一冊です。詩人の谷川俊太郎が寺山修司や松下幸之助など、著名人へ捧げた哀悼の詩は、読むと誰もが、その人のことを思い出すのではないのでしょうか。昔懐かしのあの人、そして自分の身近にいたあの人に、今一度、思いを馳せてみませんか。

『悼む詩』

(谷川俊太郎／著 正津勉／編 東洋出版)

定価：1,200円(税別)

仕様：四六判 136ページ

ISBN：978-4-8096-7754-0